

白子中学校

(2) 学校経営品質の総括

主な強みと弱み	今後の方針	外部評価
<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌で取り組みはされている。 生徒の満足度は向上している。 教師の満足度、やる気は低下していない。 取り組みの計画はなされ、方向性はある。 各分掌の取り組みは充実している。 <p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織が大きいため各分掌での充実した取り組みが全体の動きにはなりにくい。 色々な取り組みはされているが成果としては現れていない。 学校と保護者、地域の結びつきが希薄である。 	<p>【今年度の全体的な傾向】</p> <p>各カテゴリーの評点は前年度に比べ上昇している。このことから各分掌や教科での取り組みは充実していると評価されている。</p> <p>各カテゴリーの全体的な評価として、情報収集に対する取り組みについて良い評価をしている。アンケートをとることによって学習者からの評価や情報を積極的に収集していると感じている。実際にその情報（ニーズ等）を生かし、改善活動がみられる。</p> <p>しかし学校の活動結果カテゴリー8では、評価は昨年度と同じ評価で上昇の傾向はない。つまり今年度の取り組みは学校全体としては部分最適から全体最適への途上段階である。</p> <p>【今後について】</p> <p>【情報収集、分析で】</p> <p>情報収集については今後も充実推進していくことになる。反面、情報収集の回数が多く、重複していると思われることもあるので、内容の精選や収集の場面を整理する必要がある。</p> <p>【アセスメントの方法で】</p> <p>アセスメントについては、評価の場面がわかりにくく、評価項目の表現も抽象的であるので、学校（現状）にあった具体的なものをイメージできるようにさらに工夫する必要がある。</p> <p>また正確なアセスメントにつながると考えられるので、各カテゴリーの評価事項に、現状の白子中の項目を追加検討していくことも必要になる。</p> <p>【各分掌や教科等で】</p> <p>今回のアセスメントシートをもとに各分掌や教科等での具体的な取り組みの改善や来年度に向けての取り組み試案を整理していくことが必要になる。</p> <p>【経営品質委員で】</p> <p>取り組み4年目となり、職員に取り組みの有効性が認識され、方法も浸透してきた。取り組みの充実のため再度アセスメントの内容や活用のしかたについて全体研修が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「目指す学校像」を全教職員が共有し、取り組むことが必要である。大規模校で共通理解に基づく取り組みが困難な状況下、教職員が生徒の学ぶ構えの育成や、基礎的な学習規律づくりを一丸となり取り組んでいこうとしている。この努力は生徒が意欲的に学習に立ち向かう力を育てることにつながると考えられる。功を焦らず地道な実践活動が望まれる。 分掌で方向性を確立し積極的に取り組んでいるので徐々に成果を上げるものと確信している。また各分掌間の連携を強化していくことが不可欠である。 保護者や地域から言われたことを考えるのではなく保護者と地域と学校とが考える場を多く持てば良いと思われる。ただどのようにその場を持つかが大切だと思われる。 アンケート調査についてはそれなりの意義はあるが、実態を管理職や教職員の観察眼を研ぎすまし分析する力量を高める努力が必要と思われる。（質問内容の精査、経年変化の把握）。 学校経営品質は外部の一部から押し付けられたマニュアルに準拠するのではなく、生徒や教職員が自ら実態を分析し向上指針を出すべきである。 合唱コンクールに向かう生徒の努力や姿は学校全体に響き、集団づくりの基盤となり本校は輝いている。学校経営の品質向上はこの輝きを生かしていくことである。 （私見ではあるが）タイトルとして金属的な冷たさを感じる、心の領域に機械部品の思想が入ってきているのではないかと感じる。